

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	白日の夢 : 短歌
Author(s)	莊島, 秩男
Citation	龍南會雜誌, 167: 70-70
Issue date	1918-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6807
Right	

一本の榎をこめてひそやかに渡鹿の夕べ霧深みかも、
日を白み鋤打ち振れる農人の土に親しむ生活思ふ、（以下三首農人に寄す）
いさゝかの不平もあらずいさゝかの野心もあらず汝はうらやまし、
ばつくりと鋤を起せば土の色新しうして力ひそめり、
愛せむは己にあらず彼ならず石に打たれし小さな草、

白日の夢

二、二、甲二 莊 島 秩 男

あわつけきころにしみるLOCUSをたどるに似たる生活もがな
聖めくころにものを捨てあへぬ凡下のころみだれみだる、
このころ石とは化せずひややけきゴーンの瞳に瞰まるともよ
をりをりは大いなることゆめみれどこの淋しさは消ぬべくもなし
信仰を説けば嘲ける若人のざれ唄よりもさびしきはなし
のろのろと山路をくだる幾台の乗合馬車を染むる夕陽
火の山に燃ゆる眞赤き山椿たけゆく春をなやましく咲く
夕まぐれかなしき戀のをはりにも似たる姿に紅椿落つ